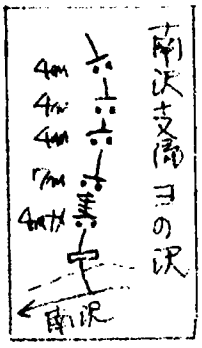
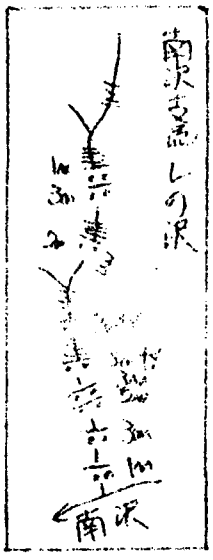


が出てくる。７ｍの滝を直登すると，水の流れは乏しくなり沢は細くなるが，小滝は続く。快適に登ってゆく。最後の４ｍは下部を直登したが，上部はコケですべり右岸に逃げる。

15分程で遡行終了。帰路はすべての滝の右岸または左岸の急斜面を巻くようにして下り，出合に戻った。

[タイム]　ヨの沢出合(10:50)→ヨの沢終了(11:05)→山本不動尊(12:20)

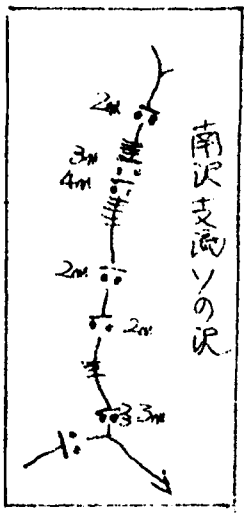
南沢支流レの沢　1988年5月15日



レの沢(仮称)も，全体的に見て平凡な沢であった。しかし，このあたりの支沢の例にもれず，ナメ状の小滝がポツポツ。花崗岩の岩はフリクションがよくきいて，気分よい源流歩きであった。カエルにとって，今は婚姻シーズンなのだろうか。姿は見せないが，落葉の下で何匹もがすずやかな声をたてていた。

水の流れもほとんどなくなった。沢は相変らず深いミゾ状だが，落葉で埋まるようになる。水の流れがすっかりなくなった所で引き返す。

[タイム]　レの沢出合(10:05)→終了(10:20)



南沢支流ソの沢　1988年5月15日

9:00ソの沢(仮称)出合。出合は両岸が岩場となり，小滝をかけてなかなかの雰囲気。先を期待して入り込んだが，すぐ平凡となった。それでも２ｍ，３ｍといった小滝がポツポツと出てくる。ここも花崗岩の沢で，小滝はいずれもナメ状であり，楽に直登できた。せせらぎの音をききながらゆっくりと源流歩きを楽しむ。30分程で源頭となった。

[タイム]　ソの沢出合(9:00)→ソの沢終了(9:30)